

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング		○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		2年次		
教員氏名	園田 博一					学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。									
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む									
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。									
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。									
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)					
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。									
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。									
備考										

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	2年次	
教員氏名	宮内 孝					学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。							
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。							
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。							
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む							
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。							
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。							
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)			
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。							
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		2年次	
教員氏名	遠藤 晃					学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP2(2) DP3(5)	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。								
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む								
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。								
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。								
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)				
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。								
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング		○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		2年次		
教員氏名	若宮 邦彦					学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。									
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む									
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。									
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。									
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)					
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。									
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。									
備考										

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		2年次	
教員氏名	早川 純子					学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP2(2) DP3(5)	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。								
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む								
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。								
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。								
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)				
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。								
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		2年次	
教員氏名	趙 雪梅					学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP2(2) DP3(5)	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。								
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む								
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。								
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。								
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)				
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。								
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		2年次	
教員氏名	金子 幸					学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP2(2) DP3(5)	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。								
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む								
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。								
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。								
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)				
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。								
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング		○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		2年次		
教員氏名	福富 隆志					学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。									
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む									
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。									
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。									
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法			(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)				
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。									
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。									
備考										

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	2年次		
教員氏名	藤本 朋美					学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。								
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む								
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。								
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。								
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。	評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)					
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。								
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング		○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		2年次		
教員氏名	野村 宗嗣					学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。									
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む									
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。									
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。									
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)					
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。									
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。									
備考										

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	2年次	
教員氏名	山田 裕司					学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。							
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。							
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。							
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む							
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。							
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。							
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)			
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。							
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		2年次	
教員氏名	田中 直美					学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP2(2) DP3(5)	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。								
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む								
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。								
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。								
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)				
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。								
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング		○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年		2年次		
教員氏名	瀬戸口 裕二					学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。									
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む									
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。									
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。									
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)					
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。									
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。									
備考										

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	2年次		
教員氏名	園田 博一					学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。								
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む								
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。								
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。								
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)				
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。								
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育プレゼミ [Pre-Seminar in Child Education]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750113	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	2年次		
教員氏名	本田 和也					学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(5)		
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる(「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」)。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス(＝準備状態)を形成していく。								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方と方法	基本的な研究プロセス(3段階)ごとに、解説・課題提示1回、指導3回の全4回構成(×3)となる。【前半】基本的な研究プロセスに関する解説及び課題提示を「講義形式(受講生全員)」で行う。毎回、授業に関するミニレポート(感想、質問、確認問題等)の提出を求める。【後半】基本的な研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式(ゼミ単位)」で行う。毎回、前半(解説・課題提示)及び前時で出された課題の提出を求める。								
授業計画	第1回:オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力を掴む 第2回:序論—興味・関心に基づく文献講読の進め方【解説・課題提示】 第3回:序論—興味・関心に基づく文献の発表と文献講読方法の決定【実践指導】 第4回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(1)【実践指導】 第5回:序論—文献に関するプレゼンテーションと議論(2)【実践指導】 興味・関心が共通する文献・資料をゼミ内で講読し、疑問点の生成と解消に向けた議論を行う 第6回:本論—興味・関心に基づく文献・資料検索、及びプレゼンテーションの実践【解説・課題提示】 第7回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(1)【実践指導】 (一つの文献・資料に関する批判的検討) 第8回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(2)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的検討) 第9回:本論—興味・関心に基づく文献・資料の発表と問題意識の醸成(3)【実践指導】 (複数の文献・資料に関する批判的「再」検討) 各自が興味・関心を持つ文献・資料を発表し、問題意識の醸成に向けた議論を行う 第10回:「卒業研究中間発表会」への参加と感想交流 卒業研究中間発表会に参加し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた議論を行う 第11回:本論—問題意識に基づく論文検索と論文構成の理解【解説・課題提示】 第12回:本論—問題意識に基づく論文発表(1)(論文構成の理解及び疑問点の生成)【実践指導】 第13回:本論—問題意識に基づく論文発表(2)(疑問点の読解及び問題意識への展開)【実践指導】 各自が検索した論文の概要を発表・整理し、疑問点と今後の問題意識の展開に向けた議論を行う 第14回:本論—研究室インターンシップ—【各研究室訪問】 論文講読で生じた疑問点を解消・昇華し、問題意識の醸成及び研究領域の選択に向けた見通しを掴む 第15回:結論—研究領域報告書の発表—【実践指導】 各自が作成した研究領域報告書を発表し、今後のゼミ選択に向けた見通しを掴む								
授業の到達目標	1.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2.「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3.各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しを掴む。								
授業時間外の学修	【予習】(解説前)事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前)提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】(解説後)学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後)指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。								
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。		評価方法		(オリエンテーション)出席時の提出物及び受講態度から判断する(2点) (解説)出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回5点×3回＝15点) (実践指導)課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回7点×9回＝63点) (卒論中間発表会への参加と感想交流)レポート提出と参加態度から判断する(10点) (研究室インターンシップ)研究室訪問時の態度及びレポート提出から判断する(10点)				
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。								
参考書	1.白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」(ミネルヴァ書房、¥2500＋税) また、必要に応じて図書、資料を紹介することとする。								
備考									